

## 思い出の「へーがま」(2)

「へーがま(灰窯)」のこゝを書いて一年近くなる。「いしばいがま(石灰窯)」と表現すれば多くの人の理解が得られただろうが、それでも私は「いしばーがま」と発音するだろつからやっぱの「へーがま」なのである。それはかつて雑木やあちらこちらに絡みつくフジツルなどで石垣の一部が見えるだけのヤブの中にあった。

退職して身軽になった私は「へーがま」に近い無人の生家に滞在することが多くなり、暮る郷愁もあってホタルの飛翔を試みたのである。「へーがま」に隣接する石灰工場跡地につくられた鯉の養殖池へ貯水できない荒廃した状態を利用してホタルの幼虫のエサとなるカワニナの増殖をすることにした。

当時、カワニナは大雨のたびに川の増水で数を減らしていたためである。そうした理由でヤブは切り開かれ「へーがま」は多くの人の目に触れることになった。カワニナの増殖は数年間順調だったが崖崩れ(がけくずれ)で水路が断たれたら、落石により池底が破壊するなどでは機能していかない。

ホタルの為に切り開かれたヤブは「へーがま」の外観を白日のもとに晒すことになり福次のな方向に道が開かれた。端緒はわからないが貴重な財産として「へーがま」の保全を願う私の思いと同じくする動きが始ったのである。関係者による石灰石の採掘場所、鉄索が張られていた尾根の切り通し、炉の構造や規模の調査が行われた。上屋が現存する「へーがま」は貴重な存在であるとの評価もされたい。関係者の今後の「尽力」に期待したい。

いすれにしても、これまで見向きもされなかったふるさとの遺物が貴重なものとして保存されることになれば、そこに生活する人たちの励みにもなる。

山城にも似た「へーがま」の前を飛翔するホタルの光を思い浮かべ、そろそろ水路と「ホタルいけ」の修理を始めようと思っている。(K・H)



## 安倍自公政権右へ右への右傾化

### 行きつく先は武力と力の支配か

政府が、中学校の体育の選択科目に「銃剣道」を追加。柔道や剣道ではありません。陸・空の自衛隊に入れば、最初に全員がする訓練が「銃剣道」です。

小銃に似せた木銃で、心臓や喉・胸を突き、相手を倒すことを目的にした訓練です。教育現場に、指導者として自衛隊員が関わるのではと危惧されています。

幼稚園にも「日の丸」と「君が代」を持ち込み、戦前に作られた「教育勅語」を副読本として使えるよう「学習指導要領」を改悪しました。

戦後、なぜ、「教育勅語」は衆参両院で排除決議がされたのか。

親を大事に、兄弟は仲良く・・・、そして事あれば、命も惜しみます天皇のために駆け付けるという枠がはめられています。国民の命の上に天皇を置いており、憲法にも、教育基本法にも違反しているからです。まるで戦前の「軍国少年」をつくるかのような右傾化です。

さらに、安保法制＝戦争法・秘密保護法・テロ等準備罪＝共謀罪など。

急速に戦争前夜に近づき、個人の自由や安全に暮らすことに一気に制限が加えられる、今後の生活や子ども達の未来を、恐怖政治の国にしてはならないと強く思わずにはいられません。

## 知子のひとりごと

### 常山 知子

私の今、一番の関心ことは「森友学園」への国有地売却問題です。

国民の財産である国有地をタダ同然で売却したことが国会で大問題になりました。「森友学園」の籠池氏の証人喚問が行われたり、国会質問で次々と疑惑が浮かび上がりましたが、今のところその疑惑がすっきりと晴れない感じです。

「首相夫人付」という政府職員が今では5人もいると知りびっくりです。しかし政府は、首相夫人を「私人」として扱います。「私人」なら夫人付はいらないと思います。しかも今回の疑惑の責任を「首相夫人付」に押し付けようとしています。

また、「森友学園」の幼稚園で行われている異常なしつけや教育が明らかになりました。

世界中でいろいろな出来事が起きています。その中で「森友学園」問題のマスコミ報道がだんだん少なくなっています。いずれは私たちの脳裏から忘れていってしまう(？)日本人の悪いくせではないでしょうか。誰がどうかわかって、どう動いたのか? 疑惑を晴らして欲しいものです。

新しい時代を前進させる

野党と市民の共闘を!

生活・法律相談 お気軽にご相談下さい

常山 知子

電話・FAX 62-6733